

## 幼児教育学科 2年 後期 専門科目

1. 教師論
2. 教育心理学
3. 子どもの食と栄養Ⅱ
4. 保育内容(健康)の指導法
5. 保育内容(人間関係)
6. 保育内容(環境)
7. 社会的養護Ⅱ
8. 保育内容(総合表現)Ⅱ
9. 臨床美術の実践Ⅱ
10. 保育実習指導Ⅱ
11. 保育実習指導Ⅲ
12. 保育実習Ⅱ
13. 保育実習Ⅲ
14. 教育実習指導Ⅱ
15. 教育実習Ⅱ
16. 幼児教育演習Ⅰ
17. 幼児教育演習Ⅱ
18. 保育心理演習
19. 音楽表現演習
20. 造形表現演習
21. 幼児体育演習
22. 保育・教職実践演習(幼稚園)

## 幼児教育学科

科目名: 教師論			担当教員 氏名: 宮越 浩子						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	講義	必修	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						学校現場における教員経験をもとに、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について、今日の教育現場における具体的事例を取り入れながら解説し、理解を深める。また、今日求められる教員像に向かう「私」づくりを継続するための視点を得られるようなアクティブ・ラーニング型授業を行う。			
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。					・成長を目指す教師・保育者 ・教職の意義 ・教師・保育者の役割 ・職務内容				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6.				
A 知識・理解力	教職の意義、教員・保育者の役割、教員・保育者の職務内容、チーム学校への対応について理解する。								
C 論理的思考力	幼稚園、保育所、児童福祉施設での保育者の仕事の共通点と相違点、家庭との連携について考える力を身につける。								
D 問題解決力	様々な方法による自己表現を積み重ね、今日求められる教員・保育者のあり方について考える。								
E 自己管理能力	保育者の社会的責任・役割を理解し、求められる保育者像に向かう「私」づくりを継続する。								
G 倫理観	保育現場で求められる教員・保育者としての倫理観について身につける。								
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	70 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	30 %
特記事項: 上記の「その他:30%」の部分では、授業での参加姿勢・態度を評価する。本科目ではアクティブ・ラーニングの一環として、グループワークやディスカッションの機会を積極的に取り入れる。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習      ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション      実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 毎時間のミニレポート、及び第7回、第14回の授業でレポート課題を課す。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートは評価終了後返却し、その後の学び方の改善やさらに学びを深めるために活かすよう指導する。									
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)						
			学習内容	学習に必要な時間(分)					
①「保育者」への扉をあけよう			{予習}これまでの実習での指導を振り返る。 {復習}①での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	{予習}60分 {復習}120分					
②保育者の仕事とは①—公教育の目的とその担い手である保育者の存在意義			{予習}①の復習 {復習}②での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	{予習}60分 {復習}120分					
③保育者の仕事とは②—保育者和其他の職業との比較、保育者の職業的特徴			{予習}②の復習 {復習}③での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	{予習}60分 {復習}120分					
④保育者に求められる資質とは①—教職観の変遷と今日求められる役割			{予習}③の復習 {復習}④での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	{予習}60分 {復習}120分					
⑤保育者に求められる資質とは②—今日求められる基礎的な資質能力			{予習}④の復習 {復習}⑤での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	{予習}60分 {復習}120分					
⑥保育者の職務と生活①—幼児への指導以外の校務と職務の全体像			{予習}⑤の復習 {復習}⑥での学びと資料をもとにしたレポート作成	{予習}60分 {復習}120分					
⑦保育者の職務と生活②—職場で学びあい、学び続ける専門職			{予習}⑥の復習 {復習}⑦での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	{予習}60分 {復習}120分					
⑧保育者の職務と生活③—保育者の服務上・身分上の義務と身分保障			{予習}⑦の復習 {復習}⑧での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	{予習}60分 {復習}120分					
⑨子どもの育ちの危機と子育て支援(「子育て支援」と保育者の役割)			{予習}⑧の復習 {復習}⑨での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	{予習}60分 {復習}120分					
⑩現代社会の変化と「保育者」の仕事や課題(多様化する課題)			{予習}⑨の復習 {復習}⑩での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	{予習}60分 {復習}120分					
⑪現代社会の変化と「保育者」の仕事や課題(多様な専門職との連携、協働、チームとしての対応)			{予習}⑩の復習 {復習}⑪での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	{予習}60分 {復習}120分					
⑫日本の保育者のあゆみ(日本近代の幕開け～保育の発展と保育者)			{予習}⑪の復習 {復習}⑫での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	{予習}60分 {復習}120分					
⑬日本の保育者のあゆみ(厳しい時代のなかで、戦後の保育者)			{予習}⑫の復習 {復習}⑬での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	{予習}60分 {復習}120分					
⑭戦後保育のあゆみ、保育者の実態			{予習}⑬の復習 {復習}⑭での学びと資料をもとにしたレポート作成	{予習}60分 {復習}120分					
⑮保育者になる人へのメッセージ			{予習}⑭の復習 {復習}⑮での学びと資料をもとにしたミニレポート作成	{予習}60分 {復習}120分					
使用テキスト: 授業中に適宜資料を配布する。			その他参考文献など: 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」						
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ■保育実習及び幼稚園実習で指導を受けた保育者の姿から学んだことや自分自身が幼稚園・保育所から高校まで受けてきた教育や先生方の姿を振り返りながら、主体的に授業に参加してほしい。■授業で配布した資料を教科書がわりとする。自己学修に使用するの必ずファイルに綴ること。									

## 幼児教育学科

科目名: 教育心理学			担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎、石津孝治						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	講義	選択必修	幼稚園教諭二種免許状科目(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: スクールカウンセラーの実務経験に基づき、教育現場における心理的支援の基礎について講義を展開している。									
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。						・学習、発達、教育			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5, 6, 7, 9.				
A 知識・理解力			教育の心理学的基礎の知識を習得する						
B 専門的技術			子どもの心理的発達をふまえた指導法を組み立てられる						
F チームワーク・リーダーシップ			自他の意見を尊重しながら、チームワーク・リーダーシップを発揮できる						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	80 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項:その他には、授業での主体的参加・発言を含む。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション、ディベート</u> <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 初回時に説明する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートを評価して返却する。									
授 業 計 画						準備学習(予習・復習等)			
						学習内容	学習に必要な時間(分)		
①【竹ノ山】教育心理学とは。						教育心理学についてまとめる	30		
②【石津】乳児期の発達について学ぶ。運動、言語、認知、社会性の各側面について。						乳児期の心理的発達についてまとめる	60		
③【石津】幼児期の発達について学ぶ。運動、言語、認知、社会性の各側面について。						幼児期の心理的発達についてまとめる	60		
④【石津】児童期の発達、特に認知発達と人間関係について学ぶ。						児童期の心理的発達についてまとめる	60		
⑤【石津】思春期の発達、特に自己の発達と人間関係について学ぶ。						思春期の心理的発達についてまとめる	60		
⑥【石津】青年期の発達に関する基本的事項について学ぶ。(大人になること・同一性形成)						青年期の心理的発達についてまとめる	60		
⑦【竹ノ山】学習行動の基礎について学ぶ①(行動主義、認知主義の考え方)						学習の心理①についてまとめる	120		
⑧【竹ノ山】学習行動の基礎について学ぶ②(知識の獲得、効果的な学習の条件)						学習の心理②についてまとめる	60		
⑨【竹ノ山】知能に関する基本的事項について学ぶ。(知能の定義・知能の発達・知能検査の意義と限界)						知能の心理についてまとめる	60		
⑩【竹ノ山】主体的学習を支える動機づけについて学ぶ。						動機づけの心理についてまとめる	60		
⑪【竹ノ山】子どもの育ちと集団について学ぶ。						子どもと集団関係の心理についてまとめる	60		
⑫【竹ノ山】集団における保育者の役割について学ぶ						保育者の役割についてまとめる	60		
⑬【竹ノ山】教育、保育における評価について学ぶ。						教育評価の基礎についてまとめる	60		
⑭【竹ノ山】配慮を要する子どもの理解と対応について学ぶ。						配慮を要する子どもの理解と対応についてまとめる	60		
⑮【竹ノ山】子どもの発達と現代社会のかかわりについて学ぶ。						子どもの発達と現代社会についてまとめる	120		
使用テキスト:					その他参考文献など: 「保育に生かす教育心理学」伊藤健次編、株式会社みらい、ISBN 978-4-86015-141-6				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 将来、教育の一端を担う者として、責任を持って、主体的な時間外学習、積極的な授業参加をお願いします。									

幼児教育学科									
科目名: 子どもの食と栄養Ⅱ			担当教員 氏名: 藤本 孝子						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	専門科目	演習	6単位 選択必修	保育士資格指定科目(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
本授業では、栄養の基礎知識を学ぶとともに、小児の身体の発育・心の発達における食生活の役割を考え、実践する能力を養う。					小児栄養、食生活、健康				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		6. 8. 9. 10				
B 専門的技術			小児の発育・発達の各過程における栄養と食生活の特徴を理解する。						
D 問題解決力			小児期の栄養・食生活の問題点と対策を主体的に考えることができる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト: 50 %		レポート: 30 %		発表: %		実技試験: %		その他: 20 %	
特記事項: その他については、授業への取り組み姿勢や演習プリント等の提出状況などが含まれる。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 試験問題の解説を行う。									
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)						
			学習内容		学習に必要な 時間(分)				
①離乳期 ・離乳の必要性			【予習】教科書(離乳の必要性)を読む。 【復習】①の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分				
②離乳期 ・離乳の進め方			【予習】教科書(離乳の進め方)を読む。 【復習】②の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分				
③離乳期 ・離乳の実際			【予習】離乳に関するプリントを読む。 【復習】③の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分				
④幼児期 ・間食の意義と実際			【予習】教科書(幼児期の食生活)を読む。 【復習】④の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分				
⑤幼児期 ・お弁当			【予習】幼児期の食に関するプリントを読む。 【復習】⑤の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分				
⑥幼児期 ・食生活の問題点			【予習】幼児期の食に関するプリントを読む。 【復習】⑥の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分				
⑦学童期・思春期 ・食生活と栄養			【予習】教科書(学童期・思春期)を読む。 【復習】⑦の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分				
⑧学童期・思春期 ・食生活の問題点			【予習】食生活の問題点に関するプリントを読む。 【復習】⑧の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分				
⑨学童期・思春期 ・学校給食			【予習】教科書(学校給食について)を読む。 【復習】⑨の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分				
⑩妊娠期 ・食生活と栄養			【予習】教科書(妊娠期の食生活)を読む。 【復習】⑩の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分				
⑪妊娠期 ・食生活の留意点			【予習】教科書(食生活の留意点)を読む。 【復習】⑪の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分				
⑫食育の意義と目的			【予習】教科書(食育の意義と目的)を読む。 【復習】⑫の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分				
⑬食育の現状と課題			【予習】教科書(食育の現状と課題)を読む。 【復習】⑬の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分				
⑭食育の実際①			【予習】食育の実際に関するプリントを読む。 【復習】⑭の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分				
⑮食育の実際②			【予習】食育の実際に関するプリントを読む。 【復習】⑮の復習を行う。		【予習】60分 【復習】60分				
使用テキスト: 発育期の子どもの食生活と栄養, 菅原 園 他, 学建書院 ISBN978-4-7624-3877-6			その他参考文献など: やさしく学べる子どもの食一授乳・離乳から思春期まで一 堤ちはる・平岩幹男, 診断と治療社						
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 日頃から、自分自身の食生活にも興味関心を持つようしてください。									

## 幼児教育学科

科目名: 保育内容(健康)の指導法				担当教員 氏名: 小川 耕平					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択必修	保育士資格指定科目(選択) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)			
実務経験を用いてどのよう な授業を行っているか: 幼児教育現場(保育所・幼稚園)などでの、運動指導で気づいた指導のポイントなどを実際の経験をもとに 教授する。また、視覚教材を活用してより実践感覚で理解できるようにする。									
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
幼児期の健康づくりに必要な知識と技術を学んだ後、子ども達の運動現場で年齢による 発達の違いを学び、個々に応じた健康・体力づくりの指導方法について習得す る。						・スキャモンの発育曲線 ・幼児期の健康づくり			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
A 知識・理解力	健康づくりのための運動遊びの必要性を考慮した運動指導ができる								
B 専門的技術	スキャモン発育曲線を考慮した運動遊びの指導や説明ができる								
E 自己管理能力	他者と協力しながら、子どもへの健康づくりの指導ができる								
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	60 %	実技試験:	%	その他:	%
特記事項:									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 デスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: ・レポート課題									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート用紙返却時にコメントにてフィードバック									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な 時間(分)				
①幼児期におけるからだの発育と発達について				事後: 年齢ごとの発育発達を理解する	30分				
②幼児期のこころの発達について				事後: こころの発達について理解する	30分				
③幼児の生活習慣と体力・運動能力の関係				事後: 幼児の生活習慣について理解する	30分				
④幼児期のケガの状況と予防策と応急処置について				事後: 応急処置法について理解する	30分				
⑤幼児期の健康・体力を知る① 現在の幼児の状況について				事後: 現在の幼児の体力を理解する	30分				
⑥幼児期の健康・体力を知る② 各種の測定方法について(視覚教材による確認)				事後: 測定項目を理解する	30分				
⑦幼児期の健康・体力を知る③ 各種測定方法の実践				事後: 測定方法を理解する	30分				
⑧幼児期の健康・体力づくりのための運動について① 理論編(資格取得)				事後: 健康・体力づくりの運動を理解する	30分				
⑨幼児期の健康・体力づくりのための運動について② 実践・指導編(資格取得)				事後: 健康・体力づくりの運動を実践する	30分				
⑩アクティブ・チャイルド・プログラム(ACP)について(視覚教材による学習)				事後: ACPを理解する	30分				
⑪子どもの現状と課題				事後: 子どもの現状を理解する	30分				
⑫幼児期における身体活動・運動の意義				事後: 身体活動・運動意義を理解する	30分				
⑬幼児期の発育特性と基礎的動きの質的評価について				事後: 幼児の発育と動きを理解する	30分				
⑭幼児への運動の指導法・指導技術について				事後: 指導のポイントを理解する	30分				
⑮幼児期の健康・体力づくりについてのまとめと学童期への準備				事後: これまでの内容をまとめる	30分				
使用テキスト: アクティブ・チャイルド・プログラム 子どもの心と体を育む楽しい遊び 日本体育協会 編者: 佐藤善人 青野博 ベースボール・マガジン社				その他参考文献など: 幼児のからだところを育てる運動遊び(杏林書院)					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ⑧・⑨コマ目は資格取得のための授業になります。日本サッカー協会 キッズリーダー 実費分(2,500円程度)必要になります。									

## 幼児教育学科

科目名: 保育内容(人間関係)				担当教員 氏名: 黒田 真由美		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次 前期	専門科目	演習	3単位 選択必修	保育士資格指定科目(必修)	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 音楽遊びのワークショップを通して、子供たちの関係づくりを深める保育者の手立てを探る授業を行う。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
子どもたちと保育者との関係づくり、子どもたち同士のかかわりが、子供自身の成長にどうかかわっていくかを理解しながら、保育者の援助のあり方について、5領域の1つである『人間関係』という視点から考える。子どもについての見取り方を見つめ直し、深め、講義を通して自分なりの保育観を探る。					・人とかかわりの発達 ・人とかかわりと環境 ・保育者の役割と援助・保育観	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 7. 8. 9. 10	
E 自己管理力			自分の人間関係のあり方を理解する。			
A 知識・理解力			「人とかかわりの発達」を理解する。			
A 知識・理解力			人的環境である保育者の役割と援助を学ぶ。			
H コミュニケーション力			子どもの生活と人とかかわりについて理解する。			
C 論理的思考力			自分の保育観を意識して論じたり、他の人の保育観を聞いたりしながら、自分なりの新たな保育観を探っていく。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
レポート	30 %	発表:	20 %	実技:	20 %	授業での行動:
						20 %
						その他: 10 %
特記事項: 毎回の授業での気付き振り返りや自己評価レポートでの評価、観察での評価、グループ活動の創作発表の評価などを中心に、特に試験は行わない。授業の中でリーダー性、積極性など観察による評価も行う。最後に、人間関係に関するレポートを提出させる。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習    デモスキャッション、ディベート    グループワーク    プレゼンテーション    実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 実技試験等の実施時期: 別に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 提出されたレポートにコメントを記載すると共に次の授業で振り返りを行う。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
① 人との関係づくりに対する基本的な個の確立とグループ作りのワークショップ						
② 人に触ること、自分に触ることの意味と音楽遊び						
③ まねっこゲームで育つ人間関係 i 身体表現の模倣 ii リズムの模倣				【予習】自分の知っているまねっこゲームを思い出し、発表できるようにしておく。	【予習】60分	
④ 幼稚園教育要領領域「人間関係」の内容の具体化						
⑤ 手遊びで育つ人間関係 i 友達と考えよう ii 幼児の発達段階と保育士の働きかけ方				【予習】自分の知っている手遊びゲームを思い出し、発表できるようにしておく。	【予習】60分	
⑥ 家での遊びと人間関係 i アンケートから探るに ii 保育士と家庭との絆						
⑦ じゃんけんゲームで育つ人間関係 i 競争心を育てる ii 勝つことと負けることの価値						
⑧ 子供の遊びアンケートから探る遊びで育つ人間関係 i 自然を見つめる目						
⑨ わらべ歌で育つ人間関係①友への好奇心				【予習】自分の知っているわらべ歌を思い出し、発表できるようにし	【予習】60分	
⑩ わらべ歌で育つ人間関係②真のリーダーは誰						
⑪ 鬼遊び歌で育つ人間関係～子どもの個性を見取ろう～						
⑫ 絵と遊び歌(クイズ遊び) どんなクイズが子供たちの豊かさを育てるかな						
⑬ 絵本と遊び歌 絵本での音楽づくりとグループで活動する意味				【予習】子どもたちに読んであげたい絵本を一冊選んで、読み聞かせできるようにしておく。	【予習】120分	
⑭ 創造した絵音楽絵本の読み聞かせ練習 子供たちが保育士を信頼関係とは?						
⑮ 演習発表とレポートまとめ						
使用テキスト: 授業者作成楽譜・ワークシートなど				その他参考文献など: 文部科学省「幼稚園教育要領解説」・カイヨフ「遊びと人間」・ロンクラーク「みんなのためのルールブック」		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 動きやすい服装(体育できる服装)での参加。						

幼児教育学科									
科目名: 保育内容(環境)				担当教員 氏名: 藤井 徳子					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	専門科目	演習	3単位 選択必修	保育士資格指定科目(必修) 幼稚園教諭二種免許状科目(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: これまで10年以上にわたって、森のようちえんや自然体験プログラムを実施してきた知見を活かし、実際にフィールドに出て自然保育プログラムを実践するといった体験型の授業を行っている。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境との関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身に付ける。					環境構成 自然体験 発達理解・援助				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 8. 9. 10				
A 知識・理解力		幼児を取り巻く環境の諸側面と現代的課題を理解し、幼児の発達における、環境との相互作用の重要性を理解する。							
B 専門的技術		幼児の遊びや生活における自然環境、文化的環境、地域・社会的環境について、その特性と、関わりにおける発達の特徴を理解し、教育的観点から素材を捉えることができる。							
C 論理的思考力		幼児期の思考や科学的概念の発達を理解し、幼児による物や諸事象との関わりの意味について、発達との関連から説明することができる。							
F チームワーク・リーダーシップ		グループ活動を通して、リーダーシップやフォロワーシップなど役割を理解し、チームに参画することができる。							
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	50 %
特記事項: 集中講義(実習)を実施する。実習中の参加意欲や態度、グループ発表、最終課題レポートによって成績を評価する。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <b>グループワーク</b> プレゼンテーション 実習、 <b>フィールドワーク</b>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: グループや個人で振り返りを行った際のワークシートやレポートを提出する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートにコメントを記載し返却									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
第1回 幼児を取り巻く環境の諸側面と幼児の発達における意義				【事前】①の予習【事後】①の復習	120				
第2回 環境との関わりにおける幼児の認知的発達				【事後】②の復習	60				
第3回 幼児期の自然体験と野外リスクマネジメントについて				【事後】③の復習	60				
第4回 生物・自然との関わりと探求				【事後】④の復習	60				
第5回 数量や図形との関わりと探求				【事後】⑤の復習	60				
第6回 幼児を取り巻く標識や文字との関わりと探求				【事後】⑥の復習	60				
第7回 遊びにおける問題解決と思考力の芽生え				【事後】⑦の復習	60				
第8回 領域「環境」のねらい・内容・内容の取扱いについて				【事後】⑧の復習	60				
第9回 環境を活かした教育・保育計画: 指導案の作成と教材研究・環境構成①				【事後】⑨の復習	60				
第10回 環境を活かした教育・保育計画: 指導案の作成と教材研究・環境構成②				【事後】⑩の復習	60				
第11回 環境を活かした遊びにおける援助: 保育実践と評価①				【事後】⑪の復習	60				
第12回 環境を活かした遊びにおける援助: 保育実践と評価②				【事後】⑫の復習	60				
第13回 幼稚園教育における評価				【事後】⑬の復習	60				
第14回 領域「環境」と小学校教科とのつながり				【事後】⑭の復習	60				
第15回 幼児を取り巻く環境の現代的課題と保育実践の動向				【事前】①~⑭の復習 【事後】⑮の復習	120				
使用テキスト: 幼稚園教育要領解説(最新版, 文部科学省) 保育所保育その他参考文献など: 集中講義時に配布 指針解説(最新版, 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(最新版, 内閣府・文部科学省・厚生労働省) (いずれも1年次に他科目で購入済)									
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 日本自然保護協会(NACS-J)と共催で集中講義を実施します(日程・内容は後日詳細)。									

## 幼児教育学科

科目名: 社会的養護Ⅱ			担当教員 氏名: 松尾 祐子						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(必修)			
実務経験をうけてどのような授業を行っているか: 社会福祉士や精神保健福祉士、未成年後見人、里親としての実務経験に基づき、実状を踏まえて授業を行う。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
子どもが社会的養護の元で、環境に適応していくためにはどのような援助が必要か。具体事例を通して、子どもや保護者への実際的な支援方法を学ぶ。養護児童や障害児童についての理解と社会自立を目指すための援助方法や保育者としてコミュニケーションやレポートのとり方について学ぶ。					子どもの最善の利益、子どもの理解、ラポール、親子関係、自立、社会性、地域連携				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 9. 10				
B 専門的技術	子どもの行動を洞察、分析し、共感的なかわりを通して心的負担の軽減を図る。								
D 問題解決力	事例を通して、課題解決の視点を持って問題解決アプローチの意識を深める。								
E 自己管理能力	与えられたテーマを整理し、客観的な思考力を身につける。								
G 倫理観	自身が好ましい社会規範を持ち、福祉的視点を持った児童観を獲得する。								
H コミュニケーション力	他者の意見を聞き、自己の考えを表出し感情交流が円滑にできるようにする。								
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	60 %	発表:	20 %	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項: その他は授業への取り組む姿勢・態度である。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習    ディスカッション、ディベート    グループワーク    プレゼンテーション    実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日で試験を実施									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 試験を採点し、返却する際に指導する。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①オリエンテーション、児童養護施設の暮らし				教科書を読む	予習復習各60分				
②乳児院・母子生活支援施設の暮らし				教科書を読む	予習復習各60分				
③児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設の暮らし				教科書を読む	予習復習各60分				
④知的障害(障害)児・自閉症児・盲ろう児施設の暮らし				教科書を読む	予習復習各60分				
⑤重症心身障害(障害)児施設・肢体不自由児施設の暮らし				教科書を読む	予習復習各60分				
⑥施設入所と日常生活支援				教科書を読む	予習復習各60分				
⑦心理的・治療的援助とは				教科書を読む	予習復習各60分				
⑧振り返り				教科書を読む	予習復習各60分				
⑨家族支援について				教科書を読む	予習復習各60分				
⑩地域との関係、機関連携ボランティア受け入れ				教科書を読む	予習復習各60分				
⑪自立を支援していくには、日常生活能力を高めるには				教科書を読む	予習復習各60分				
⑫子どもの最善の利益について				教科書を読む	予習復習各60分				
⑬支援者の資質と福祉倫理、援助技術				教科書を読む	予習復習各60分				
⑭振り返り				教科書を読む	予習復習各60分				
⑮まとめ、これからの施設の役割と形態				教科書を読む	予習復習各60分				
使用テキスト: 児童の福祉を支える[演習] 社会的養護Ⅱ 萌文書林 978-4-89347-325-7 C3037				その他参考文献など:					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 事例検討や発表に主体的・積極的に取り組むんでください。									



## 幼児教育学科

科目名: 保育内容(総合表現)Ⅱ			担当教員 氏名: 新任教員、國分、荒木、西浦、林						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	後期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(選択)			
実務経験を用いてどのよう な授業を行っているか:						授業では2月に公演する創作ミュージカルの完成に向けて音楽、造形、演技等における学生一人ひとりの総合的表現力を高めていく。ピアノは個人レッスンによるレベルアップを目指す。			
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
ピアノのレッスンを通してピアノ弾き歌いの技術を高め、童謡のレパートリーを増やしていく。また創作ミュージカルの公演に向けて、歌唱、演技、造形等の総合的表現力を身につけ、協調性、結束力を養う。						童謡のレパートリー 総合的表現力 結束力			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 7. 9. 10				
A 知識・理解力			創作ミュージカルを作り上げるための知識を身につける。						
B 専門的技術			ピアノ、歌唱、作曲、造形、演技等の総合的表現力を身につける。						
F チームワーク・リーダーシップ			他者との協調性を生み出し、音楽、演出、舞台作り等の各分野におけるリーダーシップを養う。						
H コミュニケーション力			ミュージカルを作り上げるために欠かすことができないコミュニケーション力を養う。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	20 %	実技試験:	30 %	その他:	50 %
特記事項:「その他20%」の部分ではミュージカル(音楽・演技・舞台作り等)に取り組む意欲・姿勢・態度を評価する。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 発表や実技試験は別に定めた日時に行う。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 個々に評価を伝え、必要に応じて個別指導を行う。									
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)				
					学習内容	学習に必要な時間(分)			
①【國分・荒木・西浦】創作ミュージカル配役・進行説明 【童謡ピアノ弾き歌い1					自主練習	60分以上			
②舞台作り打ち合わせ・台本読み合わせ 1					童謡弾き歌い 2	自主練習	60分以上		
③大・小道具、衣装作成計画・台本よみ合わせ 2					童謡弾き歌い 3	自主練習	60分以上		
④舞台作り・音合わせ 1					童謡弾き歌い 4	自主練習	60分以上		
⑤舞台作り・音合わせ 2					童謡弾き歌い 5	自主練習	60分以上		
⑥舞台作り・音合わせ 3					童謡弾き歌い 6	自主練習	60分以上		
⑦演技・歌唱指導、演出 1					まとめ(中間)	自主練習	60分以上		
⑧演技・歌唱指導、演出 2					童謡弾き歌い 7	自主練習	60分以上		
⑨演技・歌唱指導、演出 3					童謡弾き歌い 8	自主練習	60分以上		
⑩演技・歌唱指導、演出 4					童謡弾き歌い 9	自主練習	60分以上		
⑪演技・歌唱指導、演出 5					童謡弾き歌い 10	自主練習	60分以上		
⑫演技・歌唱指導、演出 6					童謡弾き歌い 11	自主練習	60分以上		
⑬演技・歌唱指導、演出 7					童謡弾き歌い 12	自主練習	60分以上		
⑭演技・歌唱指導、演出 8					童謡弾き歌い 13	自主練習	60分以上		
⑮演技・歌唱指導、演出 9					童謡弾き歌い 14	自主練習	60分以上		
使用テキスト: 音楽リズム(東京書籍)、子どもの歌ベストテン(ドレミ出版)					その他参考文献など:				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 保育内容(総合表現)Ⅱはミュージカルの授業とピアノの実技を合わせて評価され、単位を取得することができます。									

## 幼児教育学科

科目名: 臨床美術の実践Ⅱ			担当教員 氏名: 北澤 晃、岡野 宏宣				
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択) 臨床美術士4級	
実務経験を用いてどのよ臨床美術士養成講座講師の資格を持ち、臨床美術士として保育園や幼稚園での臨床美術の実践経験を生かし、造形うな授業を行っているか: 素材の理解やアートプログラムの実践力の向上、福祉施設でのアート活動の実施に向けて授業を行っている。							
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード	
臨床美術士として、アートプログラム制作を通して造形的な技術・技法を習得すると共に、それを用いて主体的にロールプレイングや現場実習などアクティブ・ラーニングすることによって福祉施設などでアート活動を行うための実践力を身に付ける。						・臨床美術 ・右脳の活性化 ・認知症 ・コミュニケーション	
授業における学修の到達目標							
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 5. 6. 7. 8.		
A 知識・理解力			右脳の活性化と認知症について理解することができる。				
A 知識・理解力			状況や関係を把握して様々な素材の使用法や表現技法を習得する。				
D 問題解決力			「ひと・こと・もの」に働きかけ、豊かに表現活動の場を設定するために、情報を収集・分析・整理し、目的に応じた活動案が作成できる。				
F チームワーク・リーダーシップ			リーダー・サブリーダーなどの役割を理解しチームに参画することができる。				
H コミュニケーション力			造形を通して具体的に他者を理解しコミュニケーションをすることを通して、他者に共感でき、相手の立場に立って考える事ができる姿勢を身につける。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする							
テスト: 0 %		レポート: 30 %		発表: 30 %		実技試験: 30 %	
その他: 10 %							
特記事項: ・事前課題作品は100%の提出とする。欠席した場合、授業内で制作した作品及び講義内容に関する課題を課す。 ・成績評価のレポートは事前課題の提出。発表は授業内での発言。実技試験はロールプレイング、現場実習の理解と実践力。その他は積極性を指す。 ・本科目ではアクティブ・ラーニングの一環として学生が自ら課題意識を持ち、対象者に対して臨床美術セッションを行い、実践力を身に付け、事前の準備を含めた企画、実施、記録を行います。 毎回の準備物: 脳いきいきボックス、新聞紙(朝刊1日分)、スティック糊、割り箸ペン、クロッキー帳、ウェットティッシュ、鉛筆2日か4日							
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>							
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:							
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:							
使用テキスト:『臨床美術士養成講座4級』, 芸術造形研究所 『臨床美術 認知症医療と芸術のコラボレーション』, 芸術造形研究所				その他参考文献など:			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ※本科目は「臨床美術」「臨床美術の実践Ⅰ」の単位取得者のみ受講できます。本科目は日程が不規則になっています。授業日時をよく確認してください。 ※本科目は事前課題が多い科目です。課題の提出日を常に確認してください。提出日直前に事前学習では対応できませんので、毎回計画的に進めるようにしてください。(事前・事後学習課題の欄には提出日のみ記載してあります) 諸事情により実習の予定を変更せざるを得ない場合があります。							
授 業 計 画						準備学習(予習・復習等)	
						学習内容	学習に必要な時間(分)
回数							
1	①【岡野】指導案演習「フリー実習振り返り」		11月25日		【予習】: フリー実習(報告書) 様々な技法を試す・様々な紙を試す		
2	②【岡野】臨床美術コミュニケーションⅡ「現場セッションについて」「子どもの現場セッション」		11月25日				
3	③【北澤】アートプログラム実践演習「実習にむけて試作」		12月2日		準備物: 指定されたモチーフ		
4	④【北澤】臨床美術コミュニケーションⅡ「鑑賞会」		12月2日				
5	⑤【岡野】アートプログラム実践演習「ロールプレイング」①		12月9日		【予習】:課題図書レポート 準備物: 指定されたモチーフ		
					【予習】240分		

※前ページよりつづき 幼児教育学科

科目名: 臨床美術の実践Ⅱ			担当教員 氏名: 北澤 晃、岡野 宏宣	
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)	
			学習内容	学習に必要な時間(分)
6	⑥【岡野】アートプログラム実践演習「ロールプレイング」②	12月9日		
7	⑦【北澤・岡野】実習予習指導・実習準備	12月16日		
8	⑧【北澤・岡野】現場実習 準備	12月16日		
9	⑨【北澤・岡野】現場実習	12月23日	【復習】:実習現場記録表	【復習】60分
10	⑩【北澤・岡野】現場実習	12月23日		
11	⑪【北澤・岡野】アートプログラム実践演習「実習の振り返り」	1月6日		
12	⑫【北澤】指導案演習「五感のアナログ画ロールプレイング①」	1月13日	【予習】:ゴーギャンの模写	180分
13	⑬【北澤】指導案演習「五感のアナログ画ロールプレイング②」	1月13日		
14	⑭【岡野】臨床美術基幹Ⅱ-②「臨床美術プロデュース」	1月20日		
15	⑮【北澤・岡野】「総括」「認定後の活動」	1月20日	臨床美術協会認定申請書 (課題をすべて提出してある学生) 準備物:臨床美術ハンドブック	
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				

幼児教育学科

科目名: 保育実習指導Ⅱ			担当教員 氏名: 藤井、石津、小川、岡野、宮越、新任			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次	後期	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
保育実習は、『事前学習』『実習』『事後学習』という流れの中で行われる。保育実習指導Ⅱでは、保育実習Ⅱに向けて保育所の実習の意義、実習計画の立て方や保育の方法などを学び深めていく。また、保育実習Ⅰ-①、保育実習Ⅰ-②での反省を踏まえ、実習に対する心構えや実習計画の立て方等の再確認を行う。事後学習として、実習報告書の作成を通して、実習の成果をまとめ、各自の課題を整理していく。						・保育実習の意義 ・実習計画 ・実習報告書
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福添マトリックスで示される番号)		1, 4, 6, 9	
A 知識・理解力			保育実習の意義や目的を理解し、保育を総合的に学ぶ。			
E 自己管理能力			今までの保育実習の経験を通して、自己課題を確認する。			
E 自己管理能力			保育実習に必要な手続きを行う。			
D 問題解決力			保育の改善について計画立案、実践や事例を通して学ぶ。			
C 論理的思考力			実習報告書を作成し、各自の課題をや保育に対する認識を明確にする。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: %
						その他: 100 %
特記事項: 毎回の出席を原則とし、やむを得ず欠席した場合は課題を与える。 課題への取り組み、提出物(期限厳守)の内容等で総合的に評価を行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、 <u>ディベート</u> <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> <u>実習</u> 、 <u>フィールドワーク</u>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題や指導案等にコメントを記載して返却						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
① 保育実習Ⅰ-①の振り返りと自己課題の整理				【事後】①の復習	60	
② 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解				【事前】②の予習 【事後】②の復習	120	
③ 子どもの保育と保護者支援				【事前】③の予習 【事後】③の復習	120	
④ 保育士の専門性と職業倫理				【事前】④の予習 【事後】④の復習	120	
⑤ 保育実践力の育成 (1) 個々の子どもに応じたかかわり				【事前】⑤の予習 【事後】⑤の復習	120	
⑥ 保育実践力の育成 (2) 集団に応じたかかわり				【事前】⑥の予習 【事後】⑥の復習	120	
⑦ 保育実践力の育成 (3) 保育の表現技術を生かした保育実践				【事前】⑦の予習 【事後】⑦の復習	120	
⑧ 事前訪問				【事前】⑧の予習 【事後】⑧の復習	120	
⑨ 保育の全体計画に基づいた具体的な計画の立案				【事前】⑨の予習 【事後】⑨の復習	120	
⑩ 実習指導案の作成 (1) 部分実習				【事前】⑩の予習 【事後】⑩の復習	120	
⑪ 実習指導案の作成 (2) 全日実習				【事前】⑪の予習 【事後】⑪の復習	120	
⑫ 実習の総括と自己評価				【事前】⑫の予習 【事後】⑫の復習	120	
⑬ 実習報告書の作成 (1) 事例を通して				【事前】⑬の予習 【事後】⑬の復習	120	
⑭ 実習報告書の作成 (2) 全体的考察				【事前】⑭の予習 【事後】⑭の復習	120	
⑮ 実習報告会				【事前】⑮の予習 【事後】⑮の復習	120	
使用テキスト: ① 関仁志(編著)『これで安心保育指導案の書き方』<北大路書房> ISBN: 978-4762826214 ② 関仁志(編著)『実習日誌の書き方』<一藝社> ISBN: 978-4863590427 ③ 阿部恵・鈴木みゆき(編著)『教育・保育実習安心ガイド』<ひかりのくに> ISBN: 978-4564606717 ④ 鈴木みゆき(編著)『実習のヒントとアイディア』 ISBN: 978-4-89347-022-5				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目の単位を履修するためには、全ての授業に出席し課題に取り組むと共に、保育実習Ⅱを履修する必要があります。また、実習を行うにあたって実際に必要なことを学ぶ重要な授業であり、積極的な取り組みが求められます。上記時間外においても、実習内容等に関して予習・復習・準備などに積極的に取り組んで下さい。その他必要に応じて追加授業を行う場合があります。本科目の履修状況によっては、保育実習Ⅱの履修を認めないことがあります。						

## 幼児教育学科

科目名: 保育実習指導Ⅲ			担当教員 氏名: 岡野 宏宣・藤井 徳子			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	2年次	通年	専門科目	演習	選択	保育士資格指定科目(選択必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
<p>保育実習は、『事前学習』『実習』『事後学習』という流れの中で行われる。保育実習指導Ⅲでは、保育実習Ⅲに向けて福祉施設の実習の意義、実習計画の立て方や保育・支援の方法などを学び深めていく。また、保育実習Ⅰ-①、保育実習Ⅰ-②での反省を踏まえ、実習に対する心構えや実習計画の立て方等の再確認を行う。事後学習として、実習報告書の作成を通して、実習の成果をまとめ、各自の課題を整理していく。</p>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習の意義</li> <li>・実習計画</li> <li>・実習報告書</li> </ul>	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 4. 6. 9		
A 知識・理解力	保育実習の意義や目的を理解し、保育を総合的に学ぶ。					
B 専門的技術	保育実習の経験を通して、自己課題を確認する。					
C 論理的思考力	実習報告書を作成し、各自の課題をや保育に対する認識を明確にする。					
D 問題解決力	保育の改善について計画立案、実践や事例を通して学ぶ。					
E 自己管理能力	保育実習の経験を通して、自己課題を確認する。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート: 20 %	発表: 20 %	実技試験:	%	その他: 60 %
特記事項: 毎回の授業出席を原則とし、やむを得ず欠席した場合は課題を与える。課題への取り組み、提出物(期限厳守)の内容等で総合的に評価を行う。 保育実習Ⅰ-②(福祉施設での実習)の経験をもとに保育実践力の向上について学生間でのディスカッションを行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習      ディスカッション、レポート      グループワーク      プレゼンテーション      実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:⑤～⑦で学生同士のディスカッションを行う。⑮にて報告書を作成・提出を行う。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
① 保育実習Ⅰ-②の振り返りと自己課題の整理				保育実習指導Ⅲを通して目標・課題を立てる		
② 子どもや利用者の最善の利益を考慮した保育の具体的理解				【予習】配布プリントの熟読		
③ 子どもや利用者の保育・支援と保護者支援				【予習】配布おプリントの熟読		
④ 保育士の専門性と職業倫理				【予習】配布プリントの熟読		
⑤ 保育実践力の育成 (1)個々の子どもや利用者に応じたかかわり				【復習】振り返りシートの記入		
⑥ 保育実践力の育成 (2)集団に応じたかかわり				【復習】振り返りシートの記入		
⑦ 保育実践力の育成 (3)保育の表現技術を生かした保育実践				【復習】振り返りシートの記入		
⑧ 事前訪問				【復習】予習訪問の記録をまとめる		
⑨ 保育の全体計画に基づいた具体的な計画の立案				【予習】実習活動案を調べる		
⑩ 実習指導案の作成				【復習】実習指導案の記入		
⑪ 支援計画の作成				【復習】支援計画の記入		
⑫ 実習の総括と自己評価				【予習】自己評価表の記入		
⑬ 実習報告書の作成 (1)事例を通して				【復習】報告書記入		
⑭ 実習報告書の作成 (2)全体的考察				【復習】報告書記入		
⑮ 実習報告書の作成 (3)報告				【復習】他者の報告を聞いて気付きをまとめる		
使用テキスト:使用しない。				その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介する。 プリントなどの資料を適宜配布する。		
<p>受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 本科目の単位を履修するためには、全ての授業に出席し課題に取り組むと共に、保育実習Ⅲ2単位を履修する必要があります。また、実習を行うにあたって実際に必要なことを学ぶ重要な授業であり、積極的な取り組みが求められます。上記時間外においても、実習内容等に関して予習・復習・準備などに積極的に取り組んで下さい。その他必要に応じて追加授業を行う場合があります。 本科目の履修状況によっては、保育実習Ⅲの履修を認めないことがあります。</p>						

幼児教育学科

科目名: 保育実習Ⅱ			担当教員 氏名: 藤井、石津、小川、岡野、宮越、新任			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 後期	専門科目	実習	選択	保育士資格指定科目(選択必修)	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		保育現場で具体的な実践を通して、保育知識を深め保育技術を高める。				
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
保育実習Ⅰ-①での学びを踏まえた上で、保育所における10日間の実習を通して、そこで生活する乳幼児、特に3歳以上児の生活や遊びの姿を理解し、保育の方法や援助について具体的に学ぶ。				・3歳以上児の発達 ・3歳以上児の生活と遊び ・保育の方法 ・保育援助 ・協働		
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		2, 5, 6, 7, 8, 9, 10		
A 知識・理解力		乳幼児、特に3歳以上児の発達、生活と遊び、人のかかわり、集団としての育ち等について多面的に理解を深める。				
A 知識・理解力		具体的な保育の方法、保育援助について、保育の計画、実践、観察、記録および自己評価等について実際に取り組むことを通して、総合的に学び理解を深める。				
B 専門的技術						
C 論理的思考力						
D 問題解決力						
F チームワーク・リーダーシップ		保育所内、および、家庭や地域社会との協働・連携について理解を深めると共に、保育士の職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。				
G 倫理観						
H コミュニケーション力						
E 自己管理能力		保育士としての自己の課題を明確化する。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: %
				その他: 100 %		
特記事項: 実習先保育所の評価に担当教員の評価を合わせ、総合的に評価する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション <b>実習、フィールドワーク</b>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
① ※実習先保育所のプログラムに沿って実習を行う。						
②						
③						
④						
⑤						
⑥						
⑦						
⑧						
⑨						
⑩						
⑪						
⑫						
⑬						
⑭						
⑮						
使用テキスト:				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

## 幼児教育学科

科目名: 保育実習Ⅲ				担当教員 氏名: 岡野 宏宣・藤井 徳子		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	後期	専門科目	実習	選択	保育士資格指定科目(選択必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
児童福祉施設(保育所以外)等での10日間の実習を通して、保育実習Ⅰ-②の学び等をもとに、さらに個別の子どもや利用者とのかかわりを深め、具体的な保育援助や支援の方法について学ぶ。						<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別のかかわり</li> <li>・保育援助・支援の方法</li> <li>・社会的養護</li> <li>・協働 ・職業倫理</li> </ul>
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力			児童福祉施設の役割や機能について、実践を通して理解を深める。			
B 専門的技術						
C 論理的思考力			個別の子どもや利用者への理解を深め、保育・支援計画の作成、実践、記録、自己評価等を通して、児童家庭福祉および社会的養護に対する理解を深める。			
D 問題解決力						
G 倫理観			施設内、および、家庭や地域社会との協働・連携について理解を深めると共に、保育士の職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験: % その他: 100 %
特記事項: 実習先施設の評価に担当教員の評価を合わせ、総合的に評価する。 本科目はアクティブ・ラーニングの一環として児童福祉施設等で実習を行い、学内において実習報告会を実践している。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習      ディスカッション、ディベート      グループワーク      プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
※実習先施設のプログラムに沿って実習を行う。						
使用テキスト:				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 保育実習Ⅲは、保育士資格取得のため、保育実習Ⅱといずれかを選択して行われるものです。対象となる施設は、児童厚生施設、児童発達支援施設等の福祉施設です。実習は子どもたちや利用者の生活の場で行われます。そのことを十分認識し、社会人としての自覚をもって実習に臨んで下さい。尚、保育実習Ⅲへの参加は、保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅲやその他保育士資格に必要な科目の履修状況、保育実習Ⅰ-①・保育実習Ⅰ-②の実習状況や評価、短大生活への取り組み等に基づいて総合的に判断されます。						

## 幼児教育学科

科目名： 教育実習指導Ⅱ			担当教員 氏名： 宮越、石津、岡野、小川、藤井、新任						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	演習	選択	幼稚園教諭二種免許状科目(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか： 学校現場における教員経験を活かして、幼稚園教諭としての資質や専門性について、実践的に指導を行う。									
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード				
教育実習は、『事前学習』『実習』『事後学習』という流れの中で行われる。2年次の教育実習指導では、教育実習Ⅰでの学びを踏まえ、事前学習として実習計画の立て方等の再確認を行う。事後学習として、実習報告書の作成を通して、実習の成果をまとめ、各自の課題を整理していく。					・実習計画 ・実習報告書				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1, 4, 6, 9.				
E 自己管理能力			教育実習Ⅰを通しての自己課題を確認する。						
E 自己管理能力			教育実習に必要な手続きを行う。						
D 問題解決力			教育実習の計画を立てる。						
C 論理的思考力			実習報告書を作成し、各自の課題を整理する。						
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト：	%	レポート：	%	発表：	%	実技試験：	%	その他：	100 %
特記事項： 毎回の授業出席を原則とし、やむを得ず欠席した場合は課題を与える。 課題への取り組み、提出物(期限厳守)の内容等で総合的に評価を行う。 本科目では、アクティブ・ラーニングの一環として、グループワークでの指導案作成やそれに基づいた模擬保育を行う場を積極的に取り入れる。									
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習      ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：提出レポートや指導案にコメントを記載して返却									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
① 教育実習Ⅰの振り返りと自己課題の確認				【復習】①の復習	60分				
② 実習計画の立て方・実習指導案(半日・全日実習)の書き方について				【復習】②の復習	60分				
③ 実習日誌の書き方について1(考察の書き方)				【復習】③の復習	60分				
④ 実習日誌の書き方について2(子どもの姿の捉え方)				【復習】④の復習	60分				
⑤ 実習日誌の書き方について3(保育者の姿の捉え方)				【復習】⑤の復習	60分				
⑥ 実習指導案の作成と模擬保育				【復習】⑥の復習	60分				
⑦ 教育実習Ⅱの振り返り				【復習】⑦の復習	60分				
⑧ 実習報告書の作成				【復習】教育実習全体の復習	60分				
使用テキスト：				その他参考文献など： 授業の中で適宜紹介する。 プリントなどの資料を適宜配布する。					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 本科目の単位を履修するためには、全ての授業に出席し課題に取り組むと共に、教育実習Ⅰ・Ⅱの全4単位を履修する必要があります。また、実習を行うにあたって実際に必要なことを学ぶ重要な授業であり、積極的な取り組みが求められます。上記時間外においても、実習内容等に関して予習・復習・準備などに積極的に取り組んで下さい。その他必要に応じて追加授業を行う場合があります。本科目の履修状況によっては、教育実習Ⅱの履修を認めないことがあります。									





## 幼児教育学科

科目名: 幼児教育演習 I			担当教員 氏名: 宮越 浩子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 後期	専門科目	演習	選択	
実務経験を用いてどのよう教育現場での経験をもとにした具体的な事例を提供しながら、子ども・保護者に対するよりよい支援の在り方を実践的に学ぶ。					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
2年次前期科目「保育実践演習」と原則セットで、子ども・子育て支援をテーマとし、子ども・保護者を取り巻く環境および現状への理解を深めるとともに、保育者に求められる支援の在り方について学びを深める。各自が課題を設定しながら現場に出るとともに、主体的な調査、観察、討議などに基づき演習を進める。					・引き出す関わり(コーチングを用いたコミュニケーション) ・自己対話力
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (短短マトリックスで示される番号)		5. 6. 7. 8. 9.	
A 知識・理解力		子ども・保護者を取り巻く環境および現状への理解を深める。			
B 専門的技術		保育職に求められる専門的なコミュニケーション力(引き出す関わり)を習得する。			
C 論理的思考力		自分の研究課題を設定し、現場での子ども・保護者とのかかわりをもとに考察を深める。			
H コミュニケーション力		発表場面等で自分の学びを適切に伝えられる。また、積極的にディスカッションに参加する。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート: 30 %	発表: 20 %	実技試験: %	その他: 50 %
特記事項: 「レポート:30%」は、ゼミでの学び、文献や現場体験などからのレポートを評価する。 「発表:20%」は、集団的な学びの場での発表を評価する。 「その他:50%」は、アクティブラーニングの一環として、現場での観察・体験における態度を評価する。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ティスカッション、ディベート グループワーク (プレゼンテーション) 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポートは、ゼミでの学び、文献や現場体験などをもとに作成する。発表は、集団的な学びの場での発表ならびに終末に各自のテーマに基づく発表会を行う。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートは評価終了後、報告書作成については毎時間、評価を伝え、学びを深めることができるよう指導する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①ガイダンス(今後の演習の進め方)			各自の研究計画作成	【予習】60分 【復習】60分	
②子どもへの支援の在り方について(学校現場での観察・支援1)			②での気付き・学びの振り返り	【予習】60分 【復習】60分	
③子どもへの支援の在り方について(学校現場での観察・支援2)			③での気付き・学びの振り返り	【予習】60分 【復習】60分	
④子どもへの支援の在り方について(学校現場での観察・支援3)			④での気付き・学びの振り返り	【予習】60分 【復習】60分	
⑤保護者への支援の在り方について(子育て支援コミュニティでの活動計画1)			⑤の計画作成・準備	【予習】60分 【復習】60分	
⑥保護者への支援の在り方について(子育て支援コミュニティでの活動計画2)			⑥の計画作成・準備	【予習】60分 【復習】60分	
⑦保護者への支援の在り方について(子育て支援コミュニティでの活動実践1)			⑦での気付き・学びの振り返り	【予習】60分 【復習】60分	
⑧保護者への支援の在り方について(子育て支援コミュニティでの活動実践2)			⑧での気付き・学びの振り返り	【予習】60分 【復習】60分	
⑨保護者への支援の在り方について(⑦⑧での学びの振り返り・討議)			⑦⑧での気付き・学びのレポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑩各自のテーマにもとづく個別指導1			各自の研究レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑪各自のテーマにもとづく個別指導2			各自の研究レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑫各自のテーマに応じた個別指導3			各自の研究レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑬各自のテーマに応じた個別指導4			各自の研究レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑭各自のテーマに応じた個別指導・討議(発表に向けて)			各自の研究レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑮これまでの学びのまとめ(学科での発表会)			⑮の学びのレポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
使用テキスト: 使用しない。 適宜、資料を配布したり、紹介したりする。			その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): よりよい支援の在り方について学びを深めることは、自己のコミュニケーション力を高めることにも繋がります。課題意識を明確にもち、目指す保育者像に向かって「わたし」をつくりかえていきましょう。					

## 幼児教育学科

科目名: 幼児教育演習Ⅱ			担当教員 氏名: 藤井 徳子						
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
2	2年次 後期	専門科目	演習	選択					
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 森のようちえんや自然体験活動の現場で、実践を通して具体的に学び、自然保育技術を高める。									
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード					
2年次前期科目「保育実践演習」の後半にあたるもので、自然保育をテーマとし、実践的活動を通して学びを深める。アクティブラーニングの一環として、森のようちえんや自然体験活動に参加・企画・実践し、主体的に課題探求に取り組む。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期の自然体験</li> <li>・幼児の発達理解</li> <li>・幼児の遊び</li> <li>・野外活動の危機管理</li> <li>・保育援助</li> </ul>					
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)			1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10				
A 知識・理解力		幼児の内面理解・発達理解を深める。							
B 専門的技術		幼児期の自然体験の意義を理解し、自然保育の在り方を学ぶ。							
C 論理的思考力		個々の演習テーマ・研究課題を設定し、現場での子どもとの関わりをもとに考察を深める。							
D 問題解決力		幼児の発達に必要な経験や援助のあり方を自分なりに構築する。							
H コミュニケーション力		保育現場の方々と、また学生同士で協力し自然保育の実践に取り組み、個々の気づきや学びを共有する。							
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	10 %	実技試験:	%	その他:	90 %
特記事項: 受講態度やグループ活動での貢献度等の総合評価とする。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、 <u>フィールドワーク</u>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
① オリエンテーション (今後の演習に対する心構えと見通し)				【事後】①の復習		240			
② 森のようちえん I				【事前】森のようちえん活動準備 【事後】②～③の復習		240			
③ 森のようちえん II				【事前】森のようちえん活動準備 【事後】⑤～⑦の復習		240			
④ 森のようちえん III				【事前】森のようちえん活動準備 【事後】⑧～⑩の復習		240			
⑤ 森のようちえん IV				【事前】森のようちえん活動準備 【事後】⑪～⑬の復習		240			
⑥ 全体振り返り・演習発表準備				【事前】①～⑬の復習 【事後】⑭の復習		240			
⑦ 演習発表会				【事前】発表準備 【事後】課題レポート作成		240			
使用テキスト: 特に使用しない。				その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介する。 プリントなどの資料を適宜配布する。					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・前期の保育実践演習(藤井担当)の続きとなりますので前期からの継続受講が望ましいです。 ・土日の活動(幼児や親子向けの自然体験活動)もあります。									

## 幼児教育学科

科目名: 保育心理演習			担当教員 氏名: 石津 孝治		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 後期	専門科目	演習	選択	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
2年次前期科目「保育実践演習」と原則セットで、1年を通して心理学領域の知識を深める。主に心理学的援助と子どもの発達に焦点を当て、受講生が自主的にテーマを設定し、掘り下げていく。前半は各自が設定したテーマに関する文献等について、個人またはグループで発表しディスカッションを行う。後半は各自のテーマに沿った個別指導となる。主体的な学びによる知識を深め、定着させるためにレポート集を作成する。					・心理的援助 ・発達
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	
A 知識・理解力		設定したテーマについて深く理解できる。			
B 専門的技術		対人援助の基礎的技法が習得できる。			
C 論理的思考力		設定したテーマを追求し、その成果として総合演習集が作成できる。			
H コミュニケーション力		発表場面等で適切に伝えられる。また、ディスカッションできる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート:	70 %	発表:	30 %
				実技試験:	%
				その他:	%
特記事項:					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、 <u>ディベート</u> グループワーク <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 毎回の課題についてコメントを伝える。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論1			発表者は発表内容を構成し資料を作成する。	予習30分	
②子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論2			発表者は発表内容を構成し資料を作成する。	予習30分	
③子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論3			発表者は発表内容を構成し資料を作成する。	予習30分	
④子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論4			発表者は発表内容を構成し資料を作成する。	予習30分	
⑤子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論5			発表者は発表内容を構成し資料を作成する。	予習30分	
⑥子どもの発達、心理学援助等に関する文献等の発表と討論6			発表者は発表内容を構成し資料を作成する。	予習30分	
⑦各自のテーマに応じたレポート作成指導					
⑧各自のテーマに応じたレポート作成指導					
⑨各自のテーマに応じたレポート作成指導					
⑩各自のテーマに応じたレポート作成指導					
⑪各自のテーマに応じたレポート作成指導					
⑫各自のテーマに応じたレポート作成指導					
⑬各自のテーマに応じたレポート作成指導					
⑭発表準備			パワーポイントで資料作成	予習30分	
⑮発表実施			パワーポイントで資料作成	予習30分	
使用テキスト:			その他参考文献など: 学生の課題に応じて紹介する		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):					

## 幼児教育学科

科目名: 音楽表現演習				担当教員 氏名: 新任教員					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	演習	選択				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
保育・教育現場における音楽教育に役立てるため、歌やピアノ、各楽器の演奏技術を高めながら自らの感性を磨いていく。そしてソロやアンサンブルを含めたコンサートを企画し、学内外での実施を目指す。					音楽と子ども 感性 演奏技術				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		3. 4. 6. 7. 8. 10				
B 専門的技術			歌やピアノ、各楽器の奏法を学び、演奏技術を身につける。						
F チームワーク・リーダーシップ			アンサンブルの練習や発表を通して協調性、積極性、責任感を培う。						
H コミュニケーション力			コンサートにおける子どもたちとの交流、触れ合いによってコミュニケーション力を身につける。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	50 %	実技試験:	%	その他:	50 %
特記事項: 「その他 50%」の部分では授業における学習態度を評価する。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習      ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション      実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 発表は別に定めた日時に行う。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:									
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)				
					学習内容	学習に必要な時間(分)			
①ガイダンス(授業の内容説明)					各楽器奏法の習得	60分以上			
②2回のコンサートを企画し、内容、役割を作成					プログラム考案	60分以上			
③実技演習1(アンサンブル中心)					アンサンブル奏法の習得	60分以上			
④実技演習2(アンサンブル中心)					アンサンブル奏法の習得	60分以上			
⑤実技演習3(アンサンブル中心)					アンサンブル奏法の習得	60分以上			
⑥実技演習4(ソロ中心)					各楽器奏法の習得	60分以上			
⑦実技演習5(ソロ中心)					各楽器奏法の習得	60分以上			
⑧Aプログラムの通し演習と振り返り					プログラムの振り返りとまとめ	60分以上			
⑨実技演習6(アンサンブル中心)					アンサンブル奏法の習得	60分以上			
⑩実技演習7(アンサンブル中心)					アンサンブル奏法の習得	60分以上			
⑪実技演習8(アンサンブル中心)					アンサンブル奏法の習得	60分以上			
⑫実技演習9(アンサンブル中心)					アンサンブル奏法の習得	60分以上			
⑬実技演習10(ソロ中心)					各楽器奏法の習得	60分以上			
⑭実技演習11(ソロ中心)					各楽器奏法の習得	60分以上			
⑮Bプログラムの通し演習と振り返り					プログラムの振り返りとまとめ	60分以上			
使用テキスト:				その他参考文献など:					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):									

## 幼児教育学科

科目名: 造形表現演習				担当教員 氏名: 岡野 宏宣	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 後期	専門科目	演習	選択	
実務経験を用いてどのよう な授業を行っているか: 臨床美術士、中・高美術教員の経験から、保育者として子どもの表現に共感する力や、子どもと造形活動を行うための工夫する力を身に付けることを目的とした授業を行っている。					
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード	
子どもとの造形表現活動を企画、立案、実施する中で得られる子どもの「造形表現活動」でしか得られない体験と成長の姿を振り返り、活動場面を分析し学んだ内容を整理・記録する。そのなかで、子どもの理解を深め、より良い活動内容や環境の設定、保育士・幼稚園教諭としての援助・留意点を考察する。				<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの造形表現活動</li> <li>活動実践</li> <li>造形表現行為についての整理・記録</li> </ul>	
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8. 9.	
A 知識・理解力	保育・教育の場や機会における造形表現活動の意義や内容について理解することができる。				
B 専門的技術	保育・教育の場や機会にかかわる者としての造形表現活動に関する技術を習得する。				
C 論理的思考力	保育・教育の場や機会にかかわる者として、子どもの造形表現活動に関する意義や内容、援助・留意点などについて理解し、実践した内容を整理・記録することができる。				
D 問題解決力	保育・教育における造形表現活動に関する意義や内容、援助・留意点などについて理解し、自ら活動計画を立て、実践することができる。				
H コミュニケーション力	造形表現活動に取り組むなかで、自己・他者・子どもを理解し、コミュニケーションを育むことができる。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 0 %	レポート: 40 %	発表: 0 %	実技試験: 0 %	その他: 60 %	
特記事項: 『レポート(40%)』は、各活動後の学びをまとめたレポートである。『その他(60%)』は、過程の取り組み・態度である。本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループによる制作活動を取り入れ、保育所などでの子どもたちと造形活動を行うことを想定し授業を行っている。					
アクティブラーニング要素:					
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習 <u>フィールドワーク</u>					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: ⑧回目、⑭回目の授業後、活動の記録のミニレポートを作成し、⑮回目の授業終了後、レポートを作成を課す。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: ミニレポート、レポートの提出に対して、口頭及びコメントを添えてフィードバックする。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①ガイダンス(「造形表現演習」の概略の理解)					
②子どもの興味・関心を引き出すきっかけ(保育者の意識的な関わり)についての考察			【復習】事例を調べる	60分	
③子どもの興味・関心を知る(保育園等で子どもの観察) I			【復習】記録のまとめまとめ	60分	
④子どもの興味・関心を刺激するきっかけ(保育者の意識的な関わり)を考える I			【復習】材料道具を準備する	60分	
⑤きっかけを提示し子どもの興味・関心を造形活動へつなげる関わりを実践する I			【復習】記録のまとめ	60分	
⑥子どもの興味・関心を元にした造形活動案を考える I			【復習】材料・道具の準備	180分	
⑦子ども達と造形表現活動の実践 I			【復習】実践後の記録のまとめ	60分	
⑧子どもと造形活動実践後の振り返り I			【復習】ミニレポートの作成	120分	
⑨子どもの興味・関心を知る(保育園等で子どもの観察) II			【復習】記録のまとめまとめ	60分	
⑩子どもの興味・関心を刺激するきっかけ(保育者の意識的な関わり)を考える II			【復習】材料道具を準備する	60分	
⑪きっかけを提示し子どもの興味・関心を造形活動へつなげる関わりを実践する II			【復習】記録のまとめ	60分	
⑫子どもの興味・関心を元にした造形活動案を考える II			【復習】材料・道具の準備	180分	
⑬子ども達と造形表現活動の実践 II			【復習】実践後の記録のまとめ	60分	
⑭子どもと造形活動実践後の振り返り II			【復習】ミニレポートの作成	120分	
⑮子どもが主体的に造形表現活動へ取り組むための保育者の関わりについて・まとめ			【復習】レポートの作成	180分	
使用テキスト: 必要に応じて資料を提供します。			その他参考文献など: 適時紹介します。 造形表現活動に関する文献を多く読むこと。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):					

## 幼児教育学科

科目名： 幼児体育演習			担当教員 氏名： 小川 耕平						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	演習	選択				
実務経験をうけてどのよ健康運動指導士として、健康づくりに関連するイベントの企画・運営を行ってきたので、その時に経験したような授業を行っているか： 企画力・コミュニケーション能力について幼児を対象としたイベントに関わるなど実践的な体験をする。									
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード				
前期の保育実践演習引き続き、アクティブラーニングの一環として、幼児に特化したスポーツイベントに参加もしくは企画・運営する。また、子どもの運動教室に参加し実際に子どもへの指導を体験する。					・健康づくり、体力づくり ・幼児体育				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8. 9. 10				
A 知識・理解力		健康づくり、体力づくりに必要な知識について理解する							
B 専門的技術		生涯を通じてスポーツに親しむためのスキルを身につける							
D 問題解決力		様々な状況に応じて各人が判断する能力を高める							
H コミュニケーション力		仲間と協力してやり遂げるコミュニケーション能力の構築							
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト：	%	レポート：	%	発表：	50 %	実技試験：	%	その他：	50 %
特記事項：									
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 後期中に企画・運営するイベントの参加を必須とする。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：									
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)						
			学習内容	学習に必要な時間(分)					
①オリエンテーション(後期のスケジュールイベント日時の確認と内容について)			[予習]イベントの企画について	15分					
②幼児向け運動教室の実践：ふくたん祭における実践 9月18日			[予習]幼児の運動について	20分					
③保育園での運動会種目について企画する			[予習]幼児の運動について	20分					
④保育園での運動会種目について実践① 集中講義 10月1日(予定)			[予習]幼児の運動について	20分					
⑤保育園での運動会種目について実践② 集中講義 10月1日(予定)			[予習]幼児の運動について	20分					
⑥保育園での運動会種目について実践③ 集中講義 10月1日(予定)			[予習]親子の運動について	20分					
⑦健康づくりイベントについて企画する			[事後]イベントに参加しての気づき	20分					
⑧健康・体力づくりに関するイベントⅠの実施(親子運動教室) 集中講義 10月10日(予定)			[事後]イベントに参加しての気づき	20分					
⑨健康・体力づくりに関するイベントⅠの実施(親子運動教室) 集中講義 10月10日(予定)			[事後]イベントに参加しての気づき	20分					
⑩健康・体力づくりに関するイベントⅠの実施(親子運動教室) 集中講義 10月10日(予定)			[事後]イベントに参加しての気づき	20分					
⑪健康・体力づくりに関するイベントⅠの実施(親子運動教室) 集中講義 10月10日(予定)			[事後]イベントに参加しての気づき	20分					
⑫1万人規模のスポーツイベントへの参加(集中講義・富山マラソン) 集中講義 11月6日(予定)			[事後]イベントに参加しての気づき	20分					
⑬1万人規模のスポーツイベントへの参加(集中講義・富山マラソン) 集中講義 11月6日(予定)			[予習]イベントの実施に向けて	20分					
⑭健康・体力づくりに関するイベントⅡの実施(プロスポーツ連携) 12月初旬			[予習]イベントの実施に向けて	20分					
⑮健康・体力づくりに関するイベントⅡの実施(プロスポーツ連携) 12月初旬			[事後]報告書の作成	20分					
使用テキスト： 特になし。適宜資料を配布します			その他参考文献など ・幼児のこころとからだを育てる運動遊び						
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： ・授業は基本的に集中講義中心の授業になります。									

幼児教育学科									
科目名: 保育・教職実践演習(幼稚園)			担当教員 氏名: 高見、宮越、石津、小川、岡野、藤井、新任						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	後期	専門科目	演習	選択	幼稚園教諭二種免許状科目(必修)			
実務経験を用いてどのよ学校現場における教員経験者が、幼稚園教諭としての資質や専門性について、グループ討議や模擬授業を通してうな授業を行っているか: 実践的に指導を行う。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
幼稚園教諭としての資質(心情・意欲・態度)の向上、子どもの育ち・学びを支援するための知識・技術の向上をめざし、現場実習後の各自の課題を克服することを目標とする。その際、グループ討議やグループでの模擬授業の実践を取り入れ、学びを深めていく。					<ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園教諭としての資質</li> <li>子どもの育ち・学び</li> <li>支援</li> <li>各自の課題</li> </ul>				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリクスで示される番号)		1. 2. 4. 5. 6. 9. 10					
C 論理的思考力		講義での学びをもとに実習時の取組みを振り返り、自己課題を探る。							
A 知識・理解力		幼稚園教諭としての資質や専門性に関する理解を深める。							
D 問題解決力		模擬授業指導案作成、実践、自己評価を通して、自己課題を克服する。							
F チームワーク・リーダーシップ		役割を分担しながら模擬授業を実践することを通して、他者と協同・協働し共に育ち合う。							
G 倫理観		幼稚園教諭としての職業倫理を確立する。							
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	30 %	発表:	30 %	実技試験:	%	その他:	40 %
特記事項: 授業態度、履修カルテの記入状況、レポートの内容(期限厳守)、模擬授業への取り組み、グループ活動の貢献度等から総合的に判断する。毎回の授業出席を原則とし、やむを得ず欠席した場合は課題を与える。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習									
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>ディスカッション、ディベート</span> <span>グループワーク</span> <span>プレゼンテーション</span> <span>実習、フィールドワーク</span> </div>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: グループでの指導案作成や模擬保育、園での授業実践									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 提出レポートや指導案にコメントを記載して返却									
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)				
					学習内容	学習に必要な時間(分)			
①【高見】教職の意義・教職倫理について(倉橋惣三選集に学ぶ)					①の復習	240分			
②【高見】指導案作成について(幼児理解・教材研究)					②の復習	240分			
③【高見】指導案作成について(保育のねらいと内容)					③の復習	240分			
④【高見】指導案作成について(環境構成と援助)					④の復習	240分			
⑤【高見】指導案作成について(振り返り・PDCA)					⑤の復習	240分			
⑥【高見】模擬授業					⑥の復習	240分			
⑦【高見】模擬授業の振り返り・まとめ					⑦の復習	240分			
⑧模擬授業の計画立案					模擬授業指導案の作成	300分			
⑨模擬授業の教材研究及び指導案の作成に関して					模擬授業指導案の作成	300分			
⑩グループ毎の模擬授業(1)					模擬授業指導案の評価・反省	120分			
⑪グループ毎の模擬授業(2)					模擬授業指導案の評価・反省	120分			
⑫グループ毎の模擬授業(3)					模擬授業指導案の評価・反省	120分			
⑬グループ毎の模擬授業(4)					模擬授業指導案の評価・反省	120分			
⑭指導案に基づく園での授業実践					授業指導案の評価・反省	120分			
⑮全体を通しての講評・教員としての資質能力の確認・まとめ					履修カルテの作成	120分			
使用テキスト: 特に使用しない。					その他参考文献など: ・幼稚園教育要領解説 ・保育所保育指針解説 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 ・倉橋惣三選集(学術出版会)				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): これまでの学びをもとに、幼稚園教諭としての資質を確立するための大切な授業です。演習内容に関して、事前・事後の学習課題に積極的に取り組み、授業に参加して下さい。 本授業開始時まで、2年次前期までの履修カルテを作成しておく必要があります。									